

先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム) 実績報告書

本様式の内容は一般に公表されます

研究課題名	日本と世界における貧困リスク問題に関するエビデンスに基づいた先端的学際政策研究
研究機関・部局・職名	東京大学・大学院経済学研究科・教授
氏名	澤田康幸

1. 研究実施期間 平成23年2月10日～平成 26年3月31日

2. 収支の状況

(単位:円)

	交付決定額	交付を受けた額	利息等収入額	収入額合計	執行額	未執行額	既返還額
直接経費	103,000,000	103,000,000	0	103,000,000	103,000,000	0	0
間接経費	30,900,000	30,900,000	0	30,900,000	30,900,000	0	0
合計	133,900,000	133,900,000	0	133,900,000	133,900,000	0	0

3. 執行額内訳

(単位:円)

費目	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	合計
物品費	464,952	2,128,198	1,415,119	514,250	4,522,519
旅費	0	16,581,999	9,181,890	2,767,426	28,531,315
謝金・人件費等	16,500	9,499,988	8,743,438	6,056,749	24,316,675
その他	5,440,199	6,460,249	33,340,723	388,320	45,629,491
直接経費計	5,921,651	34,670,434	52,681,170	9,726,745	103,000,000
間接経費計	0	15,039,000	7,140,000	8,721,000	30,900,000
合計	5,921,651	49,709,434	59,821,170	18,447,745	133,900,000

4. 主な購入物品(1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの)

物品名	仕様・型・性能等	数量	単価 (単位:円)	金額 (単位:円)	納入 年月日	設置研究機関名
				0		
				0		
				0		

5. 研究成果の概要

本研究では、先端的なマイクロ計量経済学分析を中核とし、公衆衛生学・防災学や精神医学等他分野の知見を融合しつつ、政府機関・NGOと連携、「リスク」とそれに対する「脆弱性」の概念を柱とした緻密な貧困実態調査を日本と途上国で行い、エビデンス(科学的証拠)に基づいた政策形成のための実践的学際研究を行った。

より具体的には自然災害により日本と世界の人々が貧困に陥る「自然災害リスク」、貧困層がうつ病・自殺に追い込まれるという「精神健康リスク」、日本とアジアで急速な高齢化が進み、貧困層が身体的健康悪化の罠に陥るという「身体健康リスク」、という3視点から周到な調査を実施し、エビデンスを蓄積した。

課題番号	LZ003
------	-------

先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム) 研究成果報告書

本様式の内容は一般に公表されます

研究課題名 (下段英語表記)	日本と世界における貧困リスク問題に関するエビデンスに基づいた先端的学際政策研究
	Evidence-Based Policy Study on Poverty Dynamics in Japan and the World
研究機関・部局・ 職名 (下段英語表記)	東京大学・大学院経済学研究科・教授
	The University of Tokyo, Graduate School of Economics, Professor
氏名 (下段英語表記)	澤田康幸
	Sawada, Yasuyuki

研究成果の概要

(和文):本研究では、先端的なマイクロ計量経済学分析を中核とし、公衆衛生学・防災学や精神医学等他分野の知見を融合しつつ、政府機関・NGO と連携、「リスク」とそれに対する「脆弱性」の概念を柱とした緻密な貧困実態調査を日本と途上国で行い、エビデンス(科学的証拠)に基づいた政策形成のための実践的学際研究を行った。

より具体的には自然災害により日本と世界の人々が貧困に陥る「自然災害リスク」、貧困層がうつ病・自殺に追い込まれるという「精神健康リスク」、日本とアジアで急速な高齢化が進み、貧困層が身体的健康悪化の罠に陥るといった身体健康リスク、という3視点から周到な調査を実施し、エビデンスを蓄積した。

(英文):In this study, we implemented evidence-based policy-oriented academic studies by investigating risk and vulnerability of poverty founded on front-line micro econometrics in collaboration with public institutions and NGOs and with other disciplines such as public health, disaster prevention, and psychiatry. To be more concrete, we accumulated evidence by investigating carefully three types of disaster risks such as natural disasters-driven poverty risks in Japan and developing countries, mental health risks causing depression and suicide in Japan, and physical health risks arising from aging and disabilities in Japan and developing countries.

様式21

1. 執行金額 133,900,000 円
(うち、直接経費 103,000,000 円、間接経費 30,900,000 円)

2. 研究実施期間 平成23年2月10日～平成26年3月31日

3. 研究目的

政策設計に資するエビデンスを戦略的に積み上げるための先端的なマイクロ経済学分析を中核とし、公衆衛生学・防災学・精神医学等他分野の知見を融合しつつ、政府機関・NGO と連携、日本と世界における貧困問題を「リスク」とそれに対する「脆弱性」という視点から、具体的な政策介入との連携を明示し学際的な研究を行うことである。より具体的には以下の三つの視点から研究を実施することを目的としている。

(1) 自然災害リスクと貧困

一般的な貧困リスクや自然災害リスクに対する人々の災害事前事後の行動に関するマイクロデータを整備・分析し、貧困リスクを効果的に削減するための政策として、インデックス型災害保険や、災害保険の再保険制度、科学的に貧困リスクを削減するための新しい技術の検証をおこなう。

(2) 精神健康リスクと貧困

経済状況の悪化によってその歪みを受け、高齢・若年や健常者・身体障がい者を問わず貧困層が解雇と失業・経済的困窮を通じてうつ病・自殺にまで追い込まれてしまうという精神健康リスクと貧困の問題に取り組む。

(3) 身体健康リスクと貧困

高齢貧困層や身体障がい者が病気に対する予防的投資・事後的対処を十分に行うことが出来ず身体的健康リスクの問題から一種の「貧困悪化の罠」に陥っているという問題について取り組む。

4. 研究計画・方法

(1) 自然災害リスク、(2) 精神的健康リスク、(3) 身体的健康リスクとそれに対する「脆弱性」という3つの視点から、日本と世界における貧困の実態を把握するため、マイクロデータを収集し、その上で、それらデータを計量経済学的に解析することでそうした貧困の実態が生み出されるメカニズムを明らかにし、エビデンスに基づいた政策介入の設計に貢献する。そのため、これら3つの側面を分析するための研究グループを構成し、これら三つのサブプロジェクト活動と成果を有機的に連携・統合させるため、補助事業者が全体を統括する。

(1) の「自然災害リスク」については、市村英彦(東京大学)・清水谷諭(内閣府)らとの研究グループを構成し、日本の過去の大震災の被害・復興に関するマイクロデータの分析を拡張し、地盤情報などリスクに関する工学的情報と統合した上で、災害に対する市場機構・非市場機構の機能性について厳密に明らかにする。また、Albert Park(University of Oxford), Sangui Wang(中国人民大

学)らと研究グループを構成し、中国四川大地震の被災世帯・被災児童の既存マイクロデータと再調査のデータを分析する。また、バングラデシュにおける貧困リスク・自然災害被災の実態を明らかにするため、既存のパネルデータを一部ベースラインとした再調査を行い、さらに実験的な政策介入の効果測定も含めて研究を行う。また、ベトナムやネパール・フィリピンなど他の途上国における既存データの整備や貧困リスクの実態に関する現地調査を実施し、収集されたデータを用いた分析を行う。

(2)の「精神健康リスク」については、自殺の背景には精神健康リスクが存在し、そうしたリスクが経済的要因によってもたらされていることに注目するが、台湾国立政治大学の Joe Chen、韓国の延世大の Yun Jeong Choi と共に 2007 年から実施してきた Studies on Suicide Project を発展させ、データ分析を行うと同時に、実態調査データを解析し、アカデミックな立場から自殺と貧困の実態を明らかにする。そして、研究成果が現実の自殺対策に生かされることを目指す。

(3)の「身体健康リスク」については、日本の高齢貧困層と日本と途上国の身体障がい者の貧困問題について取り組む。日本の高齢貧困層が、どのような経済状態に置かれ、どのような健康リスクを抱えているかについては、健康状態、経済状況、家族関係、就業状況、社会参加といった多面的な実態把握を行うため、2005 年から実施され日本で唯一国際標準を満たす質問内容と回収率を維持している「くらしと健康の調査」(Japanese Study of Aging and Retirement)と連携し、HRS など海外の高齢者調査と比較可能である、世界水準の高齢者調査を実施し、研究を行う。また、韓国・中国における同様のデータと比較し、東アジアの高齢化の実態を明らかにする。

障がい者の貧困実態の把握のためには、平成 19 年 4 月に採択され現在研究が進んでいる学術創成研究「総合社会科学としての社会・経済における障害の研究」と連携し、そこで収集された各種障がい者団体を通じた実態調査データを活用・拡張し、さらに独自に発展途上国であるネパールにおいて実態調査を行うことで、障がい者政策の評価と今後の介入への提言を行う。

いずれの課題についても、第一に、周到な調査デザインに基づき実態を詳細に明らかにするためのマイクロデータの収集、第二に、そうした大規模データを最先端のマイクロ経済学的手法を用いて学際的な見地から分析する研究活動の実施、第三に、実態調査から得られた知見を実践に有効に生かすべく、政策的な研究提言と実践、という三つの枠組みの中で組織的な研究プロジェクトの制度設計と運営・遂行を行う。また、いずれの課題についても調査分析に関する研究計画・方法を、研究費の投資対効果を十分検討した後に実地調査を開始する。さらに、「最先端・次世代研究開発支援プログラムにおける「国民との科学・技術対話」の推進について」(平成 22 年 6 月 19 日総合科学技術会議次世代プログラム運営会議決定)に基づき、各年少なくとも 1 回程度、一般市民も参加できるセミナー等の開催を予定している。

5. 研究成果・波及効果

(1)研究成果

①自然災害リスク

第一に、自然災害リスクについては、自然災害による貧困リスク減災のための政策設計に資す

るエビデンス(科学的証拠)蓄積のため、四川大地震のフィールド調査・実験データ、フィリピン農村の世帯調査・実験データ、東日本大震災被災市町村・公表データの収集・整理・解析、日本における自然災害からの生活復興の分析、東日本大震災による被害と復興の分析、インドにおけるインデックス保険の分析、バングラデシュにおけるリスクに関するフィールド実験の予備調査を進め、順次論文執筆、セミナー・学会や学術集会での報告を行った。

四川省地震のデータについては、香港科学技術大学の Albert Park 教授・中国人民大学の Sangui Wang 教授らと“Disaster, Relocation, and Child Development: Evidence from the Wenchuan Earthquake”と題する論文を仕上げ、2013年3月に開催された一橋大学の PRIMCED カンファレンスや他の研究集会で公表した。本研究では、四川省地震に被災した児童に深刻な社会心理的悪影響がみられることを明らかにした。また、地震被害とその後の寄付行動が有意に関連しており、一般的互酬性の傾向がみられることを発見している。

フィリピン農村の伝統的労働慣行については、理論的には生産リスクを増加させ、モラルハザードを引き起こす可能性のある伝統的な固定賃金制が、内的動機づけになっており、金銭インセンティブ(外的動機)の導入がそうした内的動機をクラウドアウトすることを見出している。本研究成果も2012年に開催された第28回国際農業経済学会総会(ICAIE)、Australia National University の定期研究セミナーをはじめ内外の学会・研究集会で報告された。

東日本大震災の分析については、総合研究開発機構(NIRA)と連携して作成している「東日本大震災復旧・復興インデックス」を定期的に作成・公表し、発災後6か月の間に迅速な復興がみられるもののその後、復興のスピードが特に福島県で落ちていることを厳密に示した。特に、瓦礫処理と金融機関融資の復興が遅れていることを発見している。また、Purdue 大学の Daniel Aldrich 准教授との共同研究では、津波による市区町村別死亡率の決定要因を分析している。データ解析結果によれば、津波の物理的な高さや被災前の高齢化率が死亡率を高めるという一般的な見方をデータで検証・発見しているのに加え、被災前の社会関係資本(ソーシャルキャピタル)が死亡率を有意に下げていることを発見した。Aldrich 准教授との共同研究は、2014年4月16日付け The Japan Times 紙の記事“Community bonds, not seawalls, key to minimizing deaths: 3/11 study”で中心的研究成果として取り上げられた。また、独自の調査については、研究対象地域がいまだ復興過程にあり、学術的な調査が可能となるかどうかの環境が流動的であるため、地域全体をカバーする大規模な調査はせず、福島県双葉町住民に対する郵送式調査を行い、ソーシャルキャピタルの役割について得られた成果を内外の学会・シンポジウムで報告した。

インドにおけるインデックス保険の分析については、インドの損害保険会社と連携し、インドのマディヤ・プラデシュ州において調査を実施し、松田絢子氏(東京大学特任研究員)らと共同で“Rainfall and Temperature Index Insurance in India— Project Documentation —”と題して同調査の概要をまとめた。

バングラデシュにおけるリスクに関する研究計画については、Minhaj Mahmud(Bangladesh Institute of Development Studies)、田中知美(世界銀行)、室岡武志(カリフォルニア大学)、松田絢子(カリフォルニア大学)と共にマイクロデータ・実験データを収集するためのフィールド実験を計画

し、現在パイロットの実験調査を実施している。2013年度、総選挙に伴うバングラデシュの政治的な不安定性を考慮し、大規模調査実施は見送り、無理のない範囲で現在行っているパイロット調査の拡大等を実施、データ解析を行った。

②精神健康リスク

第二に、精神健康リスクについては、自殺の決定要因について経済学の見地からまとめた世界では初めての学界展望論文 Joe Chen, Yun Jeong Choi, Kohta Mori, Yasuyuki Sawada, and Saki Sugano “Socio-Economic Studies on Suicide: A Survey,” *Journal of Economic Surveys*. 26(2): 271-306.を2012年に出版した。また、「なぜ自殺に追い込まれてしまう人がいるのか」という問題を、精神疾患などの直接的な原因だけではなく、社会・経済問題として捉え、経済学を中心とした緻密な社会科学的調査と実証分析という「エビデンス」を基に、その要因を明らかにしており、自殺対策評価については、2012年度の自殺者数が2万7766人となり、15年ぶりに3万人を下回ったことを受け、自治体のデータを基に地域自殺対策緊急強化基金が有意に自殺を低下させていることを発見した。また、鉄道予防策としていくつかの鉄道会社において広まりつつある、プラットフォーム青色灯設置の効果について、ある鉄道会社の協力を通じて得た詳細なパネルデータを用いて解析、青色灯設置が自殺者数を84%低下させることを発見した(当論文は、精神心理問題のトップフィールドジャーナルである *Journal of Affective Disorders* に掲載され、内外の数多くのメディアで取り上げられ、青色照明の効果に関する議論を活性化させた)。また、自然災害が自殺に与える影響について、日本の県別パネルデータを用いた分析を行って、自然災害に被災することが社会関係資本を増加させるかどうか自殺率増減の鍵であることを示した(本論文は、公衆衛生分野でのトップフィールドジャーナルである *Social Science and Medicine* 誌に掲載)。現在、名古屋市が取り組んだ自殺対策についても、データを基に厳密な評価を行い、論文執筆を行っている。また、一連の研究から、社会経済的な見地から自殺対策を見ることが不可欠であることを示した書籍「自殺のない社会へ ― 経済学・政治学からのエビデンスに基づくアプローチ」をシラキューズ大学上田路子氏・ノーステキサス大学松林哲也氏と共に2013年6月に上梓した。同書は2013年11月に第56回日経・経済図書文化賞を受賞し、主要紙を含め多くのメディアで取り上げられ、大きな社会的インパクトを生み出した。

③精神健康リスク

第三に、身体健康リスクの日本調査については、計画通り「くらしと健康の調査」(*Japanese Study of Aging and Retirement: JSTAR*)の研究グループ、特に市村英彦(東京大学)・清水谷諭(内閣府)と連携した研究グループを構築し、広島市と富田林市を調査対象として、各市役所と密に連携にすることにより平成24年度中にデータ収集を終了し、データの分析を行った。また、関連する解析として、筆者も質問票作成・調査設計に関わり、仙台市を対象に2011年10月に実施されたJSTARの震災特別調査のデータを分析し、東日本大震災における高齢者の被災実態を明らかにした。前述の通り、このデータを基に資産被害に対する市場・非市場的な保険メカニズムの有効性について分析、阪神淡路大震災では、生活復興において共助・公助が弱く人々が自助に

頼らざるを得なかった一方、中越地震・東日本大震災(仙台)では義援金・地震保険金・生活再建支援金などの共助・公助が大きな役割を果たしていたことを発見した(日米先端科学シンポジウム(JAFOS)など内外の研究集会等で報告している。)関連して、クロスカントリーデータを用いた分析から、世界全体において、自然災害によってもたらされた一人当たり所得低下のうち、市場・非市場的な保険メカニズムによってカバーされている比率が50%強にしか過ぎないことを発見した。また、JSTAR データを用いた日本の高齢化の姿を中国・韓国のデータと比較するため、世界銀行・香港科学技術大学(HKUST)が共同で開催した国際カンファレンス Conference on Challenges of Population Aging in Asia(2014年4月14日~16日)で報告した。

途上国調査については、ネパールを対象として既に実施した障がい者調査データの対象者423名のうち40名について、家族の背景や認知能力などについての再調査を実施した。これらデータを統合することで、障がい者における教育収益率を厳密に推定しており、ネパールにおける障がい者の教育収益率が19.3%~25.5%にも上る高い率となっているというこれまで知られていなかった新しい知見を得た。これは、「障害の社会モデル」をつよく支持する厳密な研究結果であり、国連本部の社会経済委員会や世界銀行の Human Development Network などでも研究報告を実施、大きな注目を集めつつある。本分析を行った論文は、教育経済学のあるトップフィールドジャーナル Economics of Education Review に掲載された。

(2) 研究成果の先進性や優位性及び特記事項

以下、大きく分けると七つの研究成果に特筆すべき優位性がある。

第一に、中国四川地震の研究から、被災した児童の一般的互酬性が強まり、中長期にソーシャルキャピタルを増加させる可能性があることを発見した。

第二に、フィリピン農村の伝統的労働慣行の研究から、一見すると非効率に見える途上国の慣行が、内的動機づけを維持するための合理性を持つことを先端的な分析手法から明確に示したこと。

第三に、東日本大震災のデータ解析から、津波の物理的な高さや被災前の高齢化率が死亡率を高めるといった一般的な見方をデータで検証・発見しているのに加え、被災前の社会関係資本(ソーシャルキャピタル)が死亡率を有意に下げていることを発見した。

第四に、2012年度の自殺者数が2万7766人となり、15年ぶりに3万人を下回ったことの背後には、地域自殺対策緊急強化基金が有意な役割を果たしたことを発見した。

第五に、鉄道予防策としていくつかの鉄道会社において広まりつつある、プラットフォーム青色灯設置の効果について、青色灯設置が自殺者数を84%低下させることを発見し、青色灯の自殺抑止効果についての初めてのエビデンス(科学的証拠)を発見した。

第六に、日本においては、自然災害に被災することが社会関係資本を増加させるかどうかの自殺率増減の鍵であることを示した。

第七に、阪神淡路大震災では、生活復興において共助・公助が弱く人々が自助に頼らざるを得なかった一方、中越地震・東日本大震災(仙台)では義援金・地震保険金・生活再建支援金などの

共助・公助が大きな役割を果たしていたことを発見し、自然災害被害に対する市場・非市場的な保険メカニズムの有効性が災害の規模や事前の状況によって大きく異なることを初めて厳密に示した。関連して、世界全体において、自然災害によってもたらされた一人当たり所得低下のうち、市場・非市場的な保険メカニズムによってカバーされている比率が50%強にしか過ぎないことを発見した。

第八に、ネパールにおける障がい者の教育収益率が19.3%~25.5%にも上る高い率となっていることを初めて発見し、「障害の社会モデル」の現実妥当性について重要なエビデンスを生み出した。

(3)波及効果

①自然災害リスクについては、自然災害による生活低下のリスクの実態を明らかにしつつ、そうしたリスクを最小限に食い止めるためのインデックス型災害保険について厳密なエビデンスを提示し、新しい保険メカニズムの仕組みの設計に寄与しうる。そうした点から、自然災害に対する保険メカニズム・先端技術の役割について新しい知見を示し、そうした知見を国際公共財として日本から発信することによる波及効果が期待される。

②精神健康リスクについては、日本における最も深刻な社会問題の一つである自殺問題について、自殺対策基本法のもと、自治体レベルで進みつつある自殺対策において、エビデンスに基づきながら厳密な政策評価を行い、有効な政策提言を行うという重要な貢献がある。そうした流れから、必要なエビデンスを戦略的に収集・蓄積し、得られた知見を政策の設計に積極的にフィードバックするという、エビデンスに基づいた政策形成における、建設的な学術研究と政策との連携関係を、自殺対策という文脈で確立し、他の政策設計におけるモデルとなりうる。

③身体健康リスクについては、世界的に例を見ない速度で高齢化が進展する日本において、高齢貧困層が、どのような経済状態に置かれ、どのような健康リスクを抱えているかのエビデンスが明らかとなり、高齢化社会における政策手法の確立に貢献しうる。そうした研究を通じて、日本と同様に急速に高齢化が進行しつつある東アジア諸国など諸外国の政策立案にも貢献するという波及効果が期待される。また、途上国における障がい者の生活改善を阻む制約要因が明らかとなり、よりよい政策立案に貢献しうる。特にイデオロギーを超えて、エビデンスに基づいた真に有益な政策形成手法の確立に寄与するという波及効果がある。

6. 研究発表等

<p>雑誌論文</p> <p>計 44 件</p>	<p>(掲載済み一査読有り) 計 22 件</p> <p>Yasuyuki Sawada, Kazumitsu Nawata, Masako Ii, and Mark J. Lee (2011) "Did the Financial Crisis in Japan Affect Household Welfare Seriously?" <i>Journal of Money, Credit, and Banking</i> 43(2-3), 297-324, 2011.</p> <p>Yasuyuki Sawada and Satoshi Shimizutani (2011) "Changes in durable stocks, portfolio allocation, and consumption expenditure in the aftermath of the Kobe earthquake," December, 2011, <i>Review of Economics of the Household</i> Vol. 9, No. 4, 429-443 (lead article). (平成 22 年度実施状況報告書 "Consumption Insurance and Risk-Coping Strategies under Non-Separable Utility: Evidence from the Kobe Earthquake," よりタイトルを変更)</p> <p>澤田康幸・庄司匡宏・サンガサラス(2011)「自然災害被害に対して借り入れは有効に作用するか? 南インドにおける津波被災者データの分析から」『<i>経済研究</i>』第 62 巻 第 2 号, 129-40. (平成 23 年度実施状況報告書で「掲載済み査読無し」から「査読有り」へ移動)</p> <p>Hidemi Kimura, Yuko Mori, and Yasuyuki Sawada (2012) "Aid Proliferation and Economic Growth: A Cross-Country Analysis," <i>World Development</i> Vol. 40, No. 1, pp. 1-10, 2012 (lead article of the volume).</p> <p>Joe Chen, Yun Jeong Choi, Kohta Mori, Yasuyuki Sawada, and Saki Sugano (2012) "Socio-Economic Studies on Suicide: A Survey," <i>Journal of Economic Surveys</i>. 26(2): 271-306.</p> <p>"On the Role of Technical Cooperation in International Technology Transfers," (with Ayako Matsuda and Hidemi Kimura), <i>Journal of International Development</i> Volume 24, Issue 3, pages 316-340, April 2012.</p> <p>"The MDGs and Exit Time: The Case of the Philippines (with Jonna Estudillo)" <i>Applied Economics</i> Volume 44, Issue 26, September 2012, pages 3371-337</p> <p>Kota Mori, Joe Chen, Yun Cheong Choi, Yasuyuki Sawada, and Saki Sugano "A note on the decomposition technique of economic indices," <i>Economics Bulletin</i> EB-12-00317, 2012</p> <p>Masahiro Shoji, Keitaro Aoyagi, Ryuji Kasahara, Mika Ueyama, and Yasuyuki Sawada, "Social Capital Formation and Credit Access: Evidence from Sri Lanka" <i>World Development</i> Vol. 40, No. 12, December 2012, Pages 2522-2536</p> <p>"Can Donor Coordination Solve the Aid Proliferation Problem?" with Aminur Rahman, Policy Research Working Paper 5251, (Investment Climate Department; Regulatory Simplification Unit; World Bank, March 2010, <i>Economics Letters</i> 116(3), September 2012, Pages 609-612.</p> <p>Charity Gay E. Ramos, Jonna P. Estudillo, Yasuyuki Sawada, and Keijiro Otsuka, "Transformation of the Rural Economy in the Philippines, 1988-2006," <i>Journal of Development Studies</i> Volume 48, Issue 11, November 2012, pages 1629-1648.</p> <p>"How Does Credit Access Affect Children's Time Allocation?: Evidence from Rural India," (with Nobuhiko Fuwa, Seiro Ito, Kensuke Kubo, and Takashi Kurosaki," <i>Journal of Globalization and Development</i> 3(1), Published Online 2012-06-28. An older version: IDE Discussion Paper Series No. 183</p> <p>Akiko Hagiwara, Mika Ueyama, Asad Ramlawi, and Yasuyuki Sawada "Is the Maternal and Child Health (MCH) Handbook Effective to Improve Health Behavior? Evidence from Palestine," <i>Journal of Public Health Policy</i> 34, 31-45.</p> <p>Why is Absenteeism Low among Public Health Workers in Lao PDR? (with Hiroyuki Yamada and Xubei Luo), <i>Journal of Development Studies</i> 49(1), 125-133.</p> <p>Tetsuya Matsubayashi, Yasuyuki Sawada, Michiko Ueda, 2013. "Does the installation of blue lights on train</p>
---------------------------	---

<p>platforms prevent suicide? A before-and-after observational study from Japan” <i>Journal of Affective Disorders</i>, Volume 147, Issues 1–3, May 2013, Pages 385-388</p> <p>"Modes of Collective Action in Village Economies: Evidence from Natural and Artefactual Field Experiments in a Developing Country," (with Ryuji Kasahara, Keitaro Aoyagi, Masahiro Shoji and Mika Ueyama), <i>Asian Development Review</i> 30(1), 31-51.</p> <p>Matsubayashi, Tetsuya & Sawada, Yasuyuki & Ueda, Michiko, 2013. "Natural disasters and suicide: Evidence from Japan," <i>Social Science & Medicine</i>, Elsevier, vol. 82(C), pages 126-133.</p> <p>Lamichhane, Kamal & Sawada, Yasuyuki, 2013. "Disability and returns to education in a developing country," <i>Economics of Education Review</i>, Elsevier, vol. 37(C), pages 85-94.</p> <p>Tetsuya Matsubayashi, Michiko Ueda, Yasuyuki Sawada, 2014. "The effect of public awareness campaigns on suicides: Evidence from Nagoya, Japan," <i>Journal of Affective Disorders</i>, Volumes 152–154, January 2014, Pages 526-529.</p> <p>Emmanuel Jimenez & Yasuyuki Sawada, 2014. "Does Community Management Help Keep Children in Schools? Evidence Using Panel Data from El Salvador’s EDUCO Program," <i>Economic Development and Cultural Change</i>, University of Chicago Press, vol. 62(2), pages 307 - 338.</p> <p>Sonali Senaratna Sellamuttu, Takeshi Aida, Ryuji Kasahara, Yasuyuki Sawada, and Deeptha Wijerathna (2013), "How Access to Irrigation Influences Poverty and Livelihoods: A Case Study from Sri Lanka" <i>Journal of Development Studies</i> May2014, Vol. 50 Issue 5, p748-768. 21p. An older version: "How Access to Irrigation Influences Poverty and Livelihoods: A Case Study from Sri Lanka," <i>JICA Research Institute Working Paper</i>. No.59, 2013.</p> <p>Esteban-Pretel, Julen & Sawada, Yasuyuki, 2014. "On the role of policy interventions in structural change and economic development: The case of postwar Japan," <i>Journal of Economic Dynamics and Control</i>, Elsevier, vol. 40(C), pages 67-83.</p> <p>(掲載済み一査読無し) 計 19 件</p> <p>Joe Chen, Yun Cheong Choi, Kota Mori, Yasuyuki Sawada, and Saki Sugano, "Recession, Unemployment, and Suicide in Japan," <i>Japan Labor Review</i> Volume 9, Number 2, Spring 2012, 75-92.</p> <p>Yasuyuki Sawada (2011), "Economics of Official Development Assistance: Views from Japan and East Asia," <i>The International Economy</i> No.15, 2011.</p> <p>SAWADA Yasuyuki & NAKATA Hiroyuki & KOTERA Tomoaki, 2011. "Self-Production, Friction, and Risk Sharing against Disasters: Evidence from a developing country," <i>RIETI Discussion Papers</i> 11017, Research Institute of Economy, Trade and Industry (RIETI).</p> <p>SAWADA Yasuyuki & Rima BHATTCHARYAY & KOTERA Tomoaki, 2011. "Aggregate Impacts of Natural and Man-made Disasters: A quantitative comparison," <i>RIETI Discussion Papers</i> 11023, Research Institute of Economy, Trade and Industry (RIETI)..</p> <p>Sawada, Yasuyuki & Higuchi, Yuki & Kajisa, Kei & Fuwa, Nobuhiko & Marciano, Esther B. & Estudillo, Jonna P., 2012. "The East Laguna Village: Four Decades of Studies in a Filipino Village," <i>PRIMCED Discussion Paper Series</i> 18, Institute of Economic Research, Hitotsubashi University, 2012.</p> <p>Yasuyuki Sawada and Takaharu Ishii (2012), "Do Community-Managed Schools Facilitate Social Capital Accumulation? Evidence from the COGES Project in Burkina-Faso," <i>JICA Research Institute Working Paper</i> No.42</p> <p>尾山大輔・澤田康幸・安田洋祐・柳川範之 (2011) 「復興を考えると経済学の視点から見えてく</p>
--

<p>ること」『経済セミナー増刊 復興と希望の経済学 東日本大震災が問いかけるもの』日本評論社</p> <p>澤田康幸 (2012) 「自然災害：経済学からのアプローチ」『季刊 家計経済研究』第 93 号 (2012.1)</p> <p>澤田康幸 (2012) 「震災後の被災実態把握はどうあるべきか?」『NIRA 政策レビュー』No.56. 2012/3 発行</p> <p>Sellamuttu, Sonali Senaratna, Takeshi Aida, Ryuji Kasahara, Yasuyuki Sawada, and Deeptha Wijerathna (2013) "How Access to Irrigation Influences Poverty and Livelihoods: A Case Study from Sri Lanka," Working Papers 59, JICA Research Institute.</p> <p>Ayako Matsuda, Takashi Kurosaki, Yasuyuki Sawada (2013) "Rainfall and Temperature Index Insurance in India: Project Documentation," PRIMCED Discussion Paper Series 34, Institute of Economic Research, Hitotsubashi University.</p> <p>Yasuyuki Sawada, Yuki Higuchi, Kei Kajisa, Nobuhiko Fuwa, Esther Marciano, and Jonna P. Estudillo (2012). "The East Laguna Village: Four Decades of Studies in a Filipino Village," PRIMCED Discussion Paper Series 18, Institute of Economic Research, Hitotsubashi University.</p> <p>Yoko Sakai, Jonna P. Estudillo, Nobuhiko Fuwa, Yuki Higuchi, Yasuyuki Sawada (2012). "Do Natural Disasters Affect the Poor Disproportionately? The Case of Typhoon Milenyo in the Rural Philippines," PRIMCED Discussion Paper Series 31, Institute of Economic Research, Hitotsubashi University.</p> <p>「自殺対策の経済学」大垣昌夫・小西秀樹・田渕隆俊・小川一夫 編『現代経済学の潮流 〈2012〉』東洋経済新報社, 2012 年 7 月.</p> <p>澤田康幸 (2013) 「開発経済学の新たな革命」『経済セミナー』No. 672, 2013, 6/7 月号, 30-35.</p> <p>澤田康幸・上田路子・松林哲也 (2013) 「エビデンスに基づいた自殺対策に向けて」『自由と正義』2013 年 10 月号 Vol. 64, 53-60.</p> <p>澤田康幸「日本の対アジア経済協力戦略」浦田秀次郎編・日本のアジア戦略・特集号. 財務省『フィナンシャル・レビュー』平成 25 年 (2013 年) 第 5 号 (通巻第 116 号),</p> <p>澤田康幸「自殺のない社会へ-社会学者が取り組む意義」『書齋の窓』有斐閣、2013 年 11 月.</p> <p>Sawada, Yasuyuki (2014), "Japan's Strategy for Economic Cooperation with Asian Countries," Public Policy Review, Vol.10, No.1, March 2014, 53-74.</p> <p>(未掲載) 計 3 件</p> <p>Yasuyuki Sawada and Satoshi Shimizutani "Consumption Insurance and Risk-Coping Strategies under Non-Separable Utility: Evidence from the Kobe Earthquake," <u>Review of Economics of the Household</u>.近刊 (採択済)</p> <p>Yasuyuki Sawada, Masahiro Shoji, Shinya Sugawara and Naoko Shinkai, "The Role of Infrastructure in Mitigating Poverty Dynamics: The Case of an Irrigation Project in Sri Lanka," forthcoming, B. E. Journal of Economic Analysis and Policy (Topics).</p> <p>Joe Chen, Yun Jeong Choi, Kota Mori, Yasuyuki Sawada, and Saki Sugano. "An Analysis of Suicides in Japan, 1997-2007: Changes in Incidence, Persistence, and Age Profiles." forthcoming, Social Indicators Research.</p>

会議発表	専門家向け 計 69 件
計 84 件	<p>澤田康幸「四川地震と人的資本形成」近未来課題解決プロジェクト・ブックカンファレンス 2 月 20 日、一橋大学佐野書院</p> <p>澤田康幸「On the Role of Official Development Assistance in Facilitating Growth and Reducing Poverty: Views from Japan and East Asia」国際大学、2 月 21 日.</p> <p>Yasuyuki Sawada “How is Consumption Smoothed against Income and Asset Shocks Induced by an Earthquake? The Case of the Chuetsu Earthquake” Seminar, University of Hawaii at Manoa, March 30 (招待講演)</p> <p>Yasuyuki Sawada “How Do Households Cope with Natural and Human-Made Disasters?”70th Conference of Association of Asian Studies, Honolulu, Hawaii, March 31, 2011 (Purdue 大学プロジェクトによる招待講演)</p> <p>澤田康幸”How is Consumption Smoothed against Income and Asset Shocks Induced by an Earthquake? The Case of the Chuetsu Earthquake”一橋大学マクロ・金融ワークショップ／グローバル COE: Hi-Stat／TCER 定例研究会 (2011 年 5 月 24 日)</p> <p>Yasuyuki Sawada “How do households cope with natural and human-made disasters?” Lecture in the Conference Hall of the Faculty of Business Studies, University of Dhaka, Bangladesh from 10:00AM, Saturday May 7 2011.</p> <p>「阪神淡路大震災と中越地震の比較から東日本大震災の生活再建について考える」第 3 1 回住宅政策研究会(2011 年 6 月 21 日 18 時半～19 時 50 分)</p> <p>Yasuyuki Sawada “The Impact of Earthquake and Tsunami,” International Conference on Disability Economics, at Burton Blatt Institute (BBI), Syracuse University, on 29 and 30 June 2011.</p> <p>Yasuyuki Sawada, “The nexus between disability, education and employment,” UN-DESA Briefing Seminar Series on July 2011, United Nations.</p> <p>Yasuyuki Sawada, “Disability and Returns to Education in a Developing Country,” Human Development Network on 28 Jun 2011, World Bank.</p> <p>(主催)Yasuyuki Sawada “Aggregate Impacts of Natural and Human-Made Disasters in the Global Economy”The University of Tokyo, Hitotsubashi University, and JICA Research Institute Joint Workshop "Disasters, Poverty, and Development" on October 3, 2011</p> <p>「自殺対策の経済学」日本経済学会石川賞受賞講演 2011 年 10 月 30 日筑波大学</p> <p>澤田康幸「自然災害・人的災害への対策と対応について：ミクロとマクロの両面から」財務省財務総合研究所ランチミーティング (2011 年 11 月 2 日 12:00-13:15)</p> <p>澤田康幸「東日本大震災後の生活再建：阪神淡路大震災と中越地震の経験から」2011 年度応用経済時系列研究会チュートリアルセミナー『震災復興のための計測と予測』(2011 年 11 月 4 日 19:20-20:20・同志社大学東京オフィス大セミナールーム)</p> <p>Yasuyuki Sawada “Incentives and Social Preferences in a Traditional Labor Contract: Evidence from Rice Planting Experiments in the Philippines,” presented at NEUDC 2011 at Yale University, 12-13 November, 2011.</p>

	<p>Yasuyuki Sawada “Incentives and Social Preferences in a Traditional Labor Contract: Evidence from Rice Planting Experiments in the Philippines,” International Food Policy Research Institute, November 16, 2011.</p> <p>Yasuyuki Sawada “Incentives and Social Preferences in a Traditional Labor Contract: Evidence from Rice Planting Experiments in the Philippines,” Singapore Management University, December 9, 2011.</p> <p>(主催)Yasuyuki Sawada “Incentives and Social Preferences in a Traditional Labor Contract: Evidence from Rice Planting Experiments in the Philippines,” Hakone Conference in Tokyo, GRIPS, 12 Dec 2011.</p> <p>Yasuyuki Sawada “Incentives and Social Preferences in a Traditional Labor Contract: Evidence from Rice Planting Experiments in the Philippines,” 2012 Asia-Pacific ESA Conference at Xiamen University, 15-17 Dec 2011.</p> <p>Yasuyuki Sawada "Impacts of Disasters in the (Global) Asian Economy: Concepts and Some Evidence" ERIA Research Project WG: Economic and Welfare Impacts of Disasters in East Asia and Policy Responses at ERIA, Jakarta Indonesia, December 19, 2011.</p> <p>Yasuyuki Sawada “Incentives and Social Preferences in a Traditional Labor Contract: Evidence from Rice Planting Experiments in the Philippines,” 9th Midwest International Economic Development Conference, at McNamara Alumni Center, University of Minnesota, USA, April 21, 2012.</p> <p>Yasuyuki Sawada “Does Infrastructure Facilitate Social Capital Accumulation? Evidence from Natural and Artefactual Field Experiments in a Developing Country,” Agricultural & Resource Economics Departmental Seminar, University of California at Davis April 18, 2012.</p> <p>Yasuyuki Sawada “Modes of Collective Action in Village Economies: Evidence from Natural and Artefactual Field Experiments in a Developing Country” Asian Development Review Conference on Development Issues in Asia, Asian Development Bank, Manila, Philippines, 15 May, 2012.</p> <p>Yasuyuki Sawada “Does Infrastructure Facilitate Social Capital Accumulation? Evidence from Natural and Artefactual Field Experiments in a Developing Country,” SCID Lunch Seminar, Stanford Center for International Development, Stanford University, May 22, 2012.</p> <p>(co-organizer) ERIA Workshop “Economic and Welfare Impacts of Disasters in East Asia and Policy Responses,” Centre Point Langsuan, Hotel, Bangkok, Thailand, on June 10 and 11, 2012.</p> <p>Yasuyuki Sawada “How Does an Urban Disaster Differ from a Rural Disaster?” the Global Development Network (GDN) annual conference was held at Central European University and the Hungary Academy of Sciences, June 17, 2012.</p> <p>Yasuyuki Sawada “Incentives and Social Preferences in a Traditional Labor Contract: Evidence from Rice Planting Experiments in the Philippines,” Department Seminar, Department of Economics, Sogang University, July 18, 2012.</p> <p>Yasuyuki Sawada "Aggregate Impacts of Natural and Man-made Disasters: A quantitative comparison." International Finance Team Seminar, Korea Institute for International Economic Policy (KIEP), Seoul, Korea, July 24, 2012.</p> <p>Yasuyuki Sawada “Incentives and Social Preferences in a Traditional Labor Contract: Evidence from Rice Planting Experiments in the Philippines,” Kansai Research Group on Development Microeconomics (KDME), 関西学院大学梅田キャンパス Osaka, July 26, 2012.</p> <p>Yasuyuki Sawada "Incentives and Social Preferences in a Traditional Labor Contract: Evidence from Rice Planting Field Experiments in the Philippines," 2012 International Association of Agricultural Economists (IAAE) Conference, Foz do Iguacu, Brazil, August 19, 2012.</p>
--	---

<p>Yasuyuki Sawada “Aggregate Impacts of Natural and Man-Made Disasters: A Quantitative Comparison.” The 13th International Convention of the East Asian Economic Association, Singapore, 20 October, 2012.</p> <p>Yasuyuki Sawada “Financing Disaster Risk Management: Discussion,” Disaster Risk Management in Asia and the Pacific: Inception Meeting, Asian Development Bank Institute, Kasumigaseki, Tokyo Japan, Oct 29, 2012.</p> <p>Yasuyuki Sawada “Insurance against Disasters: A Case of an Earthquake in Japan,” 2012 Asian Conference on Applied Micro-Economics/Econometrics, Sogang University, Korea, November 2, 2012.</p> <p>Hiroyuki Nakata and Yasuyuki Sawada “Entropy Characterization of Insurance Demand,” TDRI seminar, Thailand Development Research Institute (TDRI), Nov 7, 2012.</p> <p>Yasuyuki Sawada "Incentives and Social Preferences in a Traditional Labor Contract: Evidence from Rice Plantng Field Experiments in the Philippines,” Economics of Trade and Development Seminar Series, Arndt-Coden Department of Economics, Australian National University, November 20, 2012.</p> <p>Yasuyuki Sawada “Household welfare impacts of natural and manmade disasters in Korea and Japan,” Australia-Japan Research Centre, Crawford School of Public Policy, Australian National University, November 21, 2012.</p> <p>Yasuyuki Sawada “Does Infrastructure Facilitate Social Capital Accumulation? Evidence from Natural and Artefactual Field Experiments in a Developing Country,” Economics Department Seminar, Monash University Nov 23.</p> <p>Yasuyuki Sawada “Insurance for People against Disasters?” 13th Japanese-American Symposium, Japan Society for the Promotion of Science - U.S. National Academy of Sciences, Irvine, California, December 1, 2012.</p> <p>Yasuyuki Sawada "Incentives and Social Preferences in a Traditional Labor Contract: Evidence from Rice Plantng Field Experiments in the Philippines,” セミナー報告、京都大学経済研究所、2012年12月10日</p> <p>(共催) GRIPS/TWID Conference on “Risk, Social Networks, and Development,” GRIPS, Tokyo, Japan, December 27, 2012.</p> <p>Yasuyuki Sawada "Incentives and Social Preferences in a Traditional Labor Contract: Evidence from Rice Plantng Field Experiments in the Philippines,” 慶應義塾経済学会講演(グローバル COE・公共経済学セミナー・東京経済研究センター共催)、慶應義塾大学、2012年1月18日。</p> <p>澤田康幸「“絆は資本”の解明進む：フィールド実験を用いたソーシャルキャピタルの計測方法を中心に」医療経済研究会、医療科学研究所 2012年1月28日</p> <p>澤田康幸「開発経済学の新潮流：フィールド実験」大阪市立大学経済学会 研究会、2013年1月31日(木)</p> <p>Yasuyuki Sawada "Incentives and Social Preferences in a Traditional Labor Contract: Evidence from Rice Plantng Field Experiments in the Philippines,” the 2013 Asia-Pacific Meeting of the Economic Science Association (ESA) on February 16, 2013.</p> <p>澤田康幸「経済発展・ODAと官民連携：最近の研究動向から」第5回「JICAと大学との勉強会」国際協力機構(JICA)、2013年2月19日。</p> <p>Yasuyuki Sawada "Incentives and Social Preferences in a Traditional Labor Contract: Evidence from Rice Plantng Field Experiments in the Philippines,” SSD Seminar, Social Science Division, International Rice Research Institute (IRRI), Los Banos, the Philippines, Feb 26, 2013.</p>

	<p>Yasuyuki Sawada “Risk Management and Resilient Society,” Keynote Lecture, IDEAS Follow-up Program, Institute of Developing Economies (IDE), Chiba, Japan, March 6, 2013.</p> <p>(主催)Yasuyuki Sawada "Did Blue Lights Reduce Suicides in Train Stations in Japan?" paper presented at the Korea and Japan joint workshop, Economics of Suicide Prevention in Korea and Japan, held at University of Tokyo on March 23, 2012.</p> <p>澤田康幸"Incentives and Social Preferences in a Traditional Labor Contract: Evidence from Rice Plantng Field Experiments in the Philippines,"早稲田大学政治経済学部、2013年5月7日、早稲田大学現政研セミナーシリーズ</p> <p>澤田康幸「開発経済学の革命」鳥居薬品、2013年5月17日、鳥居薬品外部講演会</p> <p>澤田康幸「“絆は資本”の解明進む：フィールド実験を用いたソーシャルキャピタルの計測方法を中心に」JICA 研究所、2013年5月16日、JICA 研究所ランチタイムセミナー</p> <p>澤田康幸「災害とソーシャル・キャピタル」東京大学 CIRJE、2013年5月25日、「災害下におけるソーシャル・キャピタルと健康」日本福祉大学健康社会研究センター</p> <p>Yasuyuki Sawada “Incentives and Social Preferences in a Traditional Labor Contract: Evidence from Rice Planting Experiments in the Philippines” 政策研究大学院大学 (GRIPS)、2013年5月29日、GRIPS Seminar in Economics</p> <p>澤田康幸「Income Risks, Gender, and Human Capital Investment in Rural Pakistan」宇都宮大学、2013年6月8日、国際開発学会第14回春季大会</p> <p>Yasuyuki Sawada “Do Community-Managed Schools Facilitate Social Capital Accumulation? Evidence from the COGES Project in Burkina-Faso,” National University of Singapore, August 4, 2013, Asian Meeting of the Econometric Society</p> <p>澤田康幸「On the Schooling Effect of Mosquito Nets」関東学院大学、2013年9月15日、日本経済学会</p> <p>Yasuyuki Sawada “The Impact of Subsidy on Microfinance Entry and Coverage: A Structural Evaluation” London School of Economics, September 23, 2013, International Growth Centre (IGC) Growth Week</p> <p>Yasuyuki Sawada “Micro Impacts of Infrastructure in Facilitating Social Capital: A Case Study of an Irrigation Project in Sri Lanka” ADB Institute Seminar, October 21, 2013, Asian Development Bank (ADB) Institute</p> <p>澤田康幸「ソーシャル・キャピタル研究の潮流:主に経済学の観点から」名桜大学、2013年11月3日、「グローバルヘルス下における健康格差とソーシャル・キャピタル」国際医療保健学会</p> <p>Yasuyuki Sawada “Foundations of Structural Transformation I” “A Structural Evaluation of the Impact of Subsidy on Microfinance Entry and Coverage: Evidence from Bangladesh” “Are Multiple Borrowings Bad Signal? Evidence from Bangladesh” “The Role of Microfinance in Empowering Women” JICA 研究所、2013年11月14日、JICA 研究所（自ら企画したワークショップ）</p> <p>澤田康幸「社会関係資本～実験による検証 Social capital and (Field) Experiments」日本大学法学部、2013年11月23日、ソーシャル・キャピタル研究会</p> <p>澤田康幸「巨大災害・リスクと経済」損保ジャパン総研、2013年11月25日、「政策課題勉強会」</p>
--	--

	<p>Yasuyuki Sawada “Does Infrastructure Facilitate Social Capital Accumulation? Evidence from Natural and Artefactual Field Experiments in a Developing Country” GRIPS, December 8, 2013, Hayami Conference.</p> <p>Yasuyuki Sawada “Discussion on Hanan Jacoby and Basab Dasgupta ‘Household Exposure to Food Price Shocks in Rural Bangladesh’” ASSA Meeting at Philadelphia, January 3, 2014, Association for Economic & Development Studies in Bangladesh</p> <p>Yasuyuki Sawada “Disaster Risks, Social Preferences, and Policy Effects: Field Experiments in Selected East Asia Project Overview” “How does a Natural Disaster Affect People's Preference? The Case of a Large Scale Flood in the Philippines using the Convex Time Budget Experiments” “On the Role of Market and Non-Market Mechanisms In Post Disaster Recovery and Reconstruction” Bangkok, Thailand, January 13, 2014, ERIA- Household Behaviours in Disasters Project FY2013 Workshop (自ら企画したワークショップ)</p> <p>澤田康幸 “Micro Impacts of Infrastructure in Facilitating Social Capital: A Case Study of an Irrigation Project in Sri Lanka” 東北大学、2014年3月3日、東北大学ソーシャルキャピタル研究会</p> <p>澤田康幸「(フィールド) 実験・向社会的行動・社会関係資本」日本福祉大学、2014年3月9日、JAGES 研究会</p> <p>Yasuyuki Sawada “Infrastructure and Well-being: Impact of Jamuna Multipurpose Bridge on Jobs and livelihood in Bangladesh” Bangladesh Planning Commission, March 12, 2014, Bangladesh Planning Commission,</p> <p>Yasuyuki Sawada “Livelihood Recovery and Reconstruction from the Great East Japan Earthquake: Market, Government, and Community Insurance Mechanisms?” Philadelphia, USA, March 20, 2014, Comparative Social Science Research on Disasters and Recovery in Asia, The 2014 Conference of Association of Asian Studies.</p> <p>一般向け 計15件</p> <p>澤田康幸・Kamal Lamichhane「障がい者の教育年数と賃金：ネパールの事例」READ 公開講『障害者の教育と経済活動-計量分析による分析結果の紹介とそのインプリケーション』東京大学経済学研究科棟、3月5日。</p> <p>澤田康幸「過去の自然災害の教訓をどう生かすか? -東日本大震災後の経済復興と生活再建-」RIETI BBL (2011年4月25日)</p> <p>基調講演「過去の自然災害の教訓をどう生かすか? ~東日本大震災後の生活再建~」第47回 ESRI-経済政策フォーラム 基調講演 (2011年7月21日 14:00~)</p> <p>Yasuyuki Sawada “Can Government Policies Lead to Good Jobs for Development?” Program of Seminars (POS), 2012 Annual Meetings, International Monetary Fund and World Bank Group, October 12, 2012.</p> <p>(主催)“Evaluation of Development Assistance: Perspectives from the World Bank Group and JICA” Special Joint Seminar, Faculty of Economics, University of Tokyo, October 8, 2012.</p> <p>澤田康幸「開発経済学と自然災害」一橋大学政策フォーラム・グローバルCOEプログラム公開討論会『経済学は役に立つのか?』一橋大学如水会館、2012年12月14日</p> <p>澤田康幸「開発経済学とマイクロファイナンス」Living in Peace 主催 第5回マイクロファイナンスフォーラム 2012、2012年12月16日</p>
--	--

様式21

	<p>Yasuyuki Sawada “Comments on Dr. Minhaj Mahmud,” JICA RI Seminar, Experimental Economics and Development Policy: Some research findings from Bangladesh, JICA Research Institute, Feb 14, 2013.</p> <p>パネリスト・NIRA 東日本大震災復興シンポジウム『東北から生まれる日本の新たな成長』東京大学、2013年3月8日（金）</p> <p>澤田康幸「生活の復興を考える」METI-RIETI シンポジウム『大震災からの復興と新しい成長に向けて』江陽グランドホテル、宮城県仙台市、2013年3月22日</p> <p>Yasuyuki Sawada “An Analysis of Suicides in Japan, 1997-2007” International Christian University (国際基督教大学) , 2013年5月23日、Screening of Saving 10,000 Winning a war on suicide、International Christian University</p> <p>澤田康幸「巨大リスク・災害と経済」日本経済研究センター、2013年6月4日、日経センター設立50周年記念国際セミナー、日本経済研究センター</p> <p>澤田康幸「SAVING10,000 自殺者1万人を救う戦い：コメント」東京大学経済学部、2013年6月14日、東京大学最先端・次世代研究開発支援プログラム「日本と世界における貧困リスク問題に関するエビデンスに基づいた先端的学際研究（研究代表者：澤田康幸）」</p> <p>Yasuyuki Sawada “An Analysis of Suicides in Japan, 1997-2007: Changes in Incidence, Persistence, and Age Profiles” Wesley Center, Tokyo, September 7, 2013, TELL.</p> <p>澤田康幸『経済学の立場から「自殺対策の社会モデル」に向けて』学術総合センター：学術総合センター：学術総合センター、2014年3月2日（日）、厚生労働科学特別研究「自殺総合対策大綱の見直しを踏まえた自殺対策発展のため国際的・学際的検討」</p>
<p>図書 計6件</p>	<p>Akihiko Matsui, Osamu Nagase, Alison Sheldon, Dan Goodley, Yasuyuki Sawada, and Satoshi Kawashima (編集) Creating a Society for All: Disability and Economy, Disability Press, 2012年1月、200ページ</p> <p>(Chapter 11 担当) Yasuyuki Sawada The Economic Impact of Earthquakes on Households: Evidence from Japan, edited by Debarati Guha-Sapir and Indhira Santos, “Economic Analysis of Natural Disasters,” Oxford University Press.</p> <p>(邦訳解説担当)ディーン・カーラン ジェイコブ・アペル『善意で貧困はなくせるのか』みすず書房, 2013年</p> <p>澤田康幸・上田路子・松林哲也「自殺のない社会へ」有斐閣、2013年6月</p> <p>澤田康幸編「巨大災害・リスクと経済」日本経済新聞出版社 2014年1月</p> <p>Sawada, Yasuyuki (2013). The Economic Impact of Earthquakes on Households: Evidence from Japan. In D. Guha-Sapir, & I. Santos (Eds), The Economic Impacts of Natural Disasters. Oxford and New York: Oxford University Press.</p>
<p>産業財産権 出願・取得 状況 計0件</p>	<p>(取得済み) 計0件 (出願中) 計0件</p>

<p>Webページ (URL)</p>	<p>「NIRA 東日本大震災復旧・復興インデックス」2011年9月 http://www.nira.or.jp/pdf/1102report.pdf</p> <p>「NIRA 東日本大震災復旧・復興インデックス」2011年12月 http://www.nira.or.jp/pdf/1103report.pdf</p> <p>「NIRA 東日本大震災復旧・復興インデックス」2012年3月 http://www.nira.or.jp/pdf/1106report.pdf</p> <p>「NIRA 東日本大震災復旧・復興インデックス」2012年6月 http://www.nira.or.jp/outgoing/report/entry/n120611_646.htm</p> <p>「NIRA 東日本大震災復旧・復興インデックス」2013年3月 http://www.nira.or.jp/outgoing/report/entry/n130308_698.html</p> <p>東日本大震災復旧・復興インデックス —データが語る被災3県の現状と課題IV NIRA 研究報告書 2013/07 発行 <http://www.nira.or.jp/outgoing/report/entry/n130611_709.html></p> <p>個人ウェブサイト <https://sites.google.com/site/yasuyukisawadapage/home></p>
<p>国民との科 学・技術対 話の実施状 況</p>	<p>平成 22 年度 公開講座において、途上国の障害者がおかれている社会環境につき、教育の観点から紹介した。 「障がい者の教育年数と賃金：ネパールの事例」READ 公開講『障害者の教育と経済活動-計量分析による分析結果の紹介とそのインプリケーション』東京大学経済学研究科棟、2011年3月5日、一般向け、参加者約150名。</p> <p>平成 23 年度 「過去の自然災害の教訓をどう生かすか？～東日本大震災後の生活再建～」第47回 ESRI—経済政策フォーラム、航空会館 7階 大ホール、2011年7月21日、約200名、一般大衆対象。震災からの生活再建のためのデータの重要性に関して基調講演を行い、討論・質疑応答を行った。</p> <p>“Disasters, Poverty, and Development”カンファレンスを主催した。2011年10月3日、JICA 研究所国際会議場、参加人数70名、一般大衆対象。元世銀副総裁、ニューヨーク大学等日米欧中の大学教授を招聘し、自然災害・人的災害への備えと対処のメカニズムについて経済学の知見から討議する一般向けの国際カンファレンスを実施した。</p> <p>平成 24 年度 “Evaluation of Development Assistance: Perspectives from the World Bank Group and JICA”カンファレンスを主催した（2012年10月8日、東京大学経済学研究科棟、参加人数約70名、一般聴衆対象）。世界銀行独立評価局副総裁 Caroline Heider 氏、JICA 研究所細野昭雄所長らを招聘し、多分野における開発支援の評価、例えば災害復興、社会的保護やその他技術協力などの評価の経験について議論した。 また、IMF・世銀総会の一環として行われた公開セミナーや、一橋大学主催の公開討論会、NPO 法人主催の一般向けフォーラム、政府系研究機関である経済産業研究所（RIETI）や総合研究開発機構（NIRA）がそれぞれ主催した東日本大震災からの復興に関するカンファレンスに参加し、本プロジェクトからこれまで得られた様々な知見についての紹介と意見交換を行った。</p> <p>平成 25 年度 Yasuyuki Sawada “An Analysis of Suicides in Japan, 1997-2007” International Christian University（国際基督教大学）、2013年5月23日、Screening of Saving 10,000 Winning a war on suicide、International Christian University、ICUの学生を中心とした一般聴衆対象、約100名、自殺対策に関して英語での講演とパネル討論を行った</p>

様式21

	<p>澤田康幸「巨大リスク・災害と経済」日本経済研究センター、2013年6月4日、日経センター設立50周年記念国際セミナー、日本経済研究センター、一般聴衆対象、約300名、Jeffrey Sachs教授らと共にパネリストとして登壇し、経済成長と環境保護の両立、社会的な平等の促進、そして貧困の撲滅など国際的な課題解決にあたって企業の果たす役割がますます注目される。企業と政府や国際機関、NPOとの連携の在り方などを議論した。</p> <p>澤田康幸「SAVING10,000 自殺者1万人を救う戦い：コメント」東京大学経済学部、2013年6月14日、東京大学最先端・次世代研究開発支援プログラム「日本と世界における貧困リスク問題に関するエビデンスに基づいた先端的学際研究（研究代表者：澤田康幸）」一般聴衆対象、約50名、レネ・ダイグナン氏を迎え、自殺対策のシンポジウムを開催した。</p> <p>Yasuyuki Sawada “An Analysis of Suicides in Japan, 1997-2007: Changes in Incidence, Persistence, and Age Profiles” Wesley Center, Tokyo, September 7, 2013, TELL.、一般大衆対象、約40人、自殺対策の在り方について、英語の講演とで討論を行った。</p> <p>澤田康幸『経済学の立場から「自殺対策の社会モデル」に向けて』学術総合センター：学術総合センター：学術総合センター、2014年3月2日（日）、厚生労働科学特別研究「自殺総合対策大綱の見直しを踏まえた自殺対策発展のため国際的・学際的検討」、一般聴衆対象、約60名、自殺対策の在り方について講演と討論を行った。</p>
<p>新聞・一般雑誌等掲載計26件</p>	<p>「大災害の備え 研究進む」日本経済新聞 『経済教室』 面 2011年8月1日</p> <p>「開発経済学 深化の原動力」日本経済新聞 『経済教室』面(22ページ) 2011年12月5日</p> <p>「自殺大国ニッポン、どうしたら悲劇を減らせるのか—経済学から考える「自殺のインセンティブ」軽減の処方箋」『日経ビジネスオンライン』2012年3月28日</p> <p>「ODA 投資誘発効果に光」日本経済新聞 『経済教室』(2012年8月20日)</p> <p>「駅に青色灯 自殺8割減」読売新聞（朝刊）2012年10月10日において研究成果引用</p> <p>「青色灯で駅での飛び込み8割減」2012年10月10日 NHK ニュースにおいて研究成果引用</p> <p>「青色灯、飛び込み防止に効果 設置駅で自殺者84%減—東大」2010年10月10日時事通信・Yahoo ニュースにおいて研究成果引用</p> <p>「駅に青色灯、飛び込み自殺8割減 東大分析」日本経済新聞 2012年10月10日（夕刊）において研究成果引用</p> <p>日本テレビ「スッキリ!!」（2012年10月11日）内で青色灯研究成果についてのインタビュー紹介</p> <p>フジテレビ「とくダネ!」（2012年10月12日）内で青色灯研究成果についてのインタビュー紹介</p> <p>「（風）広がる計量経済学」日本経済新聞（朝刊）2012年10月22日で研究成果引用</p> <p>「“絆は資本”の解明進む」日本経済新聞 『経済教室』（2012年12月18日）</p> <p>“Radio Japan Focus: LEDs Can Save Lives” February 6, 2013, NHK World Radio Programsにおいて、インタビューが世界18か国語で配信</p> <p>「時事解析：震災復興のデータ分析⑤事業再建支える金融支援」日本経済新聞（朝刊）において、インタビュー引用、2013年3月1日</p>

様式21

	<p>「2012年度第2回一橋大学政策フォーラム公開討論会『経済学は役に立つのか?』」日本経済新聞（朝刊）において講演要旨掲載、2013年1月17日</p> <p>日本経済新聞2013年6月12日朝刊「援助・輸出・投資一体で」（講演の要約）</p> <p>週刊ダイヤモンド2013年8月24日89ページ「緻密な調査と実証分析が明かす 社会・経済問題としての自殺」（書評として取り上げられる）</p> <p>毎日新聞2013年9月1日朝刊10面「悲劇を減らすため 社会科学にできること」（書評として取り上げられる）</p> <p>エコノミスト2013年9月17日56-57ページ「自殺のない社会へ 澤田康幸・上田路子・松林哲也著」（書評として取り上げられる）</p> <p>朝日新聞2013年10月8日夕刊3面「自殺はなぜ社会問題か」「社会学者3人が共著」（芸芸批評欄において主テーマとして取り上げられる）</p> <p>東洋経済 2013年10月26日83ページ「人身事故を防げ 急ぐ鉄道各社」（研究成果を引用）</p> <p>日本経済新聞2013年11月3日朝刊「自殺のない社会へ 澤田康幸・上田路子・松林哲也著 経済学的手法で対策探る」（日経経済図書文化賞記事）</p> <p>日本経済新聞2013年11月6日朝刊30面「人のつながり 経済学も注目」（研究成果を引用）</p> <p>日本経済新聞2013年12月29日朝刊19ページ「エコノミストが選ぶ経済図書ベスト10」</p> <p>経済セミナー2013年12月・2014年1月号127ページ「エビデンスに基づく自殺予防対策の必要性を説く」（書評として取り上げられる）</p> <p>日本経済新聞2014年3月2日朝刊「巨大災害・リスクと経済 澤田康幸編 市場と政府、共同体の役割を考察」（書評として取り上げられる）</p>
<p>その他</p>	<p>自殺問題に関するインタビューの引用、週刊エコノミスト2012年2月28日号掲載</p> <p>Yasuyuki Sawada “On the Role of Official Development Assistance in Facilitating Growth and Reducing Poverty: Views from Japan and East Asia” SNU In Tokyo, University of Tokyo, Aug 9, 2012.</p> <p>Yasuyuki Sawada “Natural Disasters and the Role of Microfinance” アライアンスフォーラム財団マイクロファイナンス研修、2012年8月11日</p>

7. その他特記事項